



発行
天理教本愛大教会
 〒 453-0821
 名古屋市中村区大宮町 1-60
 TEL (052) 461-4326
 MAIL mail@hon-ai.org
 〒 632-0071
 奈良県天理市田井庄町 19-1
 TEL (0743) 62-0378
 編集責任 広 報 部

7月神殿講話より

佐藤康弘先生

立教186年7月月次祭の神殿講話には、那美岐大教会部
 属廣國分教会ようぼくで、スノーボードの世界的コーチ
 である佐藤康弘先生が登壇した(写真左)。講話の一部を
 要約して紹介する(左記QRコードから動画でもご覧
 いただけます)。

広島県の天理教の教会で生まれ育ちました。海外在住の信者さんもいる教会で、会長である両親の思いもあり、海外で英語を勉強してこるよう言われたのが、十代のころでした。

実は私は嫌で仕方がありませんでしたが、親の思いに應えることは大切だと感じ、高校卒業後にカナダ・バンクーバーへ留学。そこでスノーボードに出会いま

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つながる。

5年後に日本へ帰国し、プロスノーボーダーになり、現在は指導者として、日本やオーストラリア、アメリカの代表選手たちを育成する立場をお与えいただいています。

また、昨年の北京五輪では、中国が国家プロジェクトに掲げるスノーボードチームの代表コーチに招聘されました。

皆さんも中国にはさまざまなイメージをお持ちだと思います。私自身、中国とつながりがあつたわけではなく、日本のスポーツ庁にあたる当局の方から誘いを受けたときは、引き受けるか非常に迷いました。

それでも就任を承諾したのは、先方から言われたあ

一言がきっかけでした。
 (続きはユーチューブで)
夏の祭典 開幕
 縦の伝道講習会も



今年の「子どもおぢばがり」は8月6日まで、おぢばで開催されている。

中止期間を経て4年ぶりの開催となった今年は、本愛からも大勢の子供たちが帰参。詰所でも、かき氷やゲーム、などが用意され、子供たちの楽しげな声が連日響いた。

またこれに先立ち、7月1日入社祭祭典後には、「縦の伝道講習会」が行われ、少年会本部委員長・田邊大治先生が登壇。子供たちに信仰を伝える重要性を語った。

8月のこよみ	入社祭	1日 午前10時
	よふき会例会	2日 午前10時
	女子青年例会	5日 午前10時
	月次祭	13日 午前10時
	青年会例会	13日 午前10時
	布教実修所	14日 午前10時
	子ども食堂MOGU	17日 午後5時
	婦人会例会	20日 午前10時
	むつみ会例会	20日 午前10時
	本部月次祭	26日 午前9時
	ほんあいOKEIKO	27日 午前10時

続きは YouTube
本愛大教会
公式チャンネルへ

佐藤 康弘 氏
 スノーボードコーチ
 廣國分教会ようぼく

※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですので、チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

とも 昭和36年1月

そして、我さえよ



安藤正吉・初代会長様が繰り返し話されていた事柄の一つに「徳」があります。徳とは、一体何なのでしょう。か。どうすれば「積む」ことができるのでしょうか。今回はこのことについて、先人の言葉を引きながら考えてみたいと思います。

徳とは、その人の陰の力

榊井孝四郎先生は、母親が教祖からお聞かせいただいた言葉として、このように述べています。

「人の為に働かして貰わなくては徳は貰えない（中略）人の為に働くのは、丁度水に譬えていうならば、池の水を向うへ押すようなものやでと仰しやつた。池の



水をいくら向うへ押しても押しでも、池の水はすぐに横から帰ってくる。これは天の理や」（『みちの道』昭和36年1月）

くぼという心遣いは、逆に水をかき集めようとしても集められないのと同じで、徳が逃げていく行いであると述べておられます。

「徳」の反対の意味に「いんねん（を積む）」を挙げている点も興味深く感じます。また、飯降伊蔵先生（写真左）は、教祖からこのように聞かせてもらったと語っておられます。

伊蔵さん、この道は陰徳

を積みなされや。人の見ている目先でどのようなに働いても、勉強しても、陰で手を抜いたり、人の悪口を言うていては、神様のお受け取りはありません。何でも人様に礼を受けるようなことでは、それでその徳が勘定済になるのやで。（『飯降伊蔵伝』より）

榊井先生のお話と合わせ、やはり「人のため」に何かをするということが、徳を積む行いの最も重要な点だと分かります。そしてそのことを見せびらかしたりするのではなく、「陰で行うように」と教祖は諭されているのです。

ところで、私の尊敬する方の一人に、愛町分教会初代会長・関根豊松先生がおられます。関根先生は徳についての教えを、さらに明快に話しておられます。

「徳とは人の前にあるのではない。人の見ていない

陰にある。人の見えない陰こそ誠をしておけ。すると人のできない働きをする。人の見ていないところこそ、自分がよく知っている。自分の知っていることこそ、神が知っている。（中略）だからお道は陰で天理を全うすることを教えるのだ。徳、と呼ぶものは、その人の陰の力のことである」（『因縁に勝つ』より）

こうした陰徳の大切さは、安藤正吉初代会長様も重ね重ねお説いています。

この信仰は理屈や理論の信仰でなく、陰徳をつみ、悪いんねんを切る信仰である。（『みかぐらうた講話』より）

少し古くさくも聞こえる「陰徳」という言葉は、現代ではあまり聞かれなくなつたと言ふ人もいます。だからこそ、陰徳の大切さは増しているのかもしれない。私も今一度心に留め直したいと思えます。

公式サイトと YouTube をご活用ください！

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る



雨が降った後に雲間から青空が顔を見せると空にきれいな虹がかかると虹があります。虹は赤から紫までの七色が輝く色鮮やかな光の帯で、太陽光と水蒸気が織りなす幻想的な光景に心を癒される人も多いのではな

いでしょうか。虹を見ると光が七つの色で構成されていることが分かりますが、そうでなければ光の色の構成を意識することはまずありません。無色透明で、誰にも気にされずに世界を照らし続ける灯り、それが太陽の光です。

親神様の十全の守護も、これと同じことがいえます。教祖は人間の体内とこの世界にあふれるご守護を十の働きに分けて教えられました。それが一つ一つ独立したのではなく、常に働

きが重なり、補い合うことで健康が保たれ、自然界の秩序が維持されるのです。十全の守護に示される「人間身の内」とは、体内を意味します。また「世界」と表現されるのは、太陽の熱や地球を取り巻く水大気などすべての自然現象を指しますが、それと共に天然自然の摂理や人生上の法則にも、遍く親神様の守護が及んでいる事実にも心を向ける姿勢が肝要です。たとえば、をふとのべの

みことは、母親の胎内から子供を引き出して無事に出産させてくださる働きです。そして生まれ出た後も身長を伸ばし、発育を進める「引き出し」の働きを司る一方で、自然界では農作物や植物、動物を成育させてくださいます。

それに加えて心の面においては、相手の長所を伸ばしたり、陽気ぐらしのできる方向へと周囲の人の心を引き出す努力を続けることで、我が身をふとのべのみことの守護が現れて、心身の成長や仕事上の昇進と出世、あるいは事業の伸展という姿で返してくださる。このように考えていくと、身の回りのあらゆる出来事に十全の守護が深く関わっ

ていることが分かります。

■心の軌道修正を

「十全」とは、一つの欠けるところもない完全なるものを意味します。つまり私たちが味わう人生の喜怒哀楽や健康に関わる出来事で、十全の守護によらぬものは一つもないのです。言い換えると、病気や様々な事情は、十全の守護を十分にいただかず、どこかが欠けているために現れると悟るのが信仰的な考え方です。そしてそれはご守護が欠けているのではなく、ご守護をいただく器としての我が心の在り方に原因があると教祖は教えられました。

なんぎするものも、ろからわがみうらみであるほどに (十下り目7)

身上や事情を見せられた時、親神様に身上回復や事情解決を願うのは大切なことです。しかし闇雲に祈るだけでは真の解決にはつな

がらないでしよう。そうではなく、祈りと共に十全の守護を十分いただくのに相応しい心使いは何かという点に焦点を合わせて、反省と心の軌道修正をしなくてはなりません。さらに重要なことは、体も健康で特に悩みもない平生の時から十全の守護を味わい、体の機能がいかに優れているかを感じて、親神様に感謝と報恩の心を捧げる精神です。

くり返しますが、十全の守護は一つ一つ切り離せるものではありません。親神様からのかりものである体と、この世界にあふれるご守護の中に喜びを見出し、そこから報恩の行いを産み出す努力が本當の信仰の歩み方です。教祖はひながたを通して、その継続的な実践を促されました。私たちの真実の行いが人だすけにつながるよう、常にひながたを求めて三年千日を歩み抜いていきましよう。

【第 104 回】

十全の守護の悟りを深めて ひながたの道を歩み抜こう

8月14日

本愛布教実修所の予定

おつとめ、布教実動

教理講座

講師 水野一徳・本正徳

分教会長

テーマ「存命の理を感じ

る」

大教会長夫妻に三女誕生

7月9日、大教会長夫

妻にめでたく三女が誕生

し、「芽生」(めい)と命

名された。

事情おはこび

(令和5年6月26日付)

本築分教会

◎臨時祭典願

創立101周年記念祭

令和5年11月3日

修養科一期講師

松浦道太郎氏(本喜愛)

が、修養科第981期の一期講
師を務めた。

修養科生教養掛

第982期

4月 種田里恵(本煥)

5月 渡邊真由美(本愛福)

6月 中島恵美子(本清明)

右の各氏が教養掛を務めた。

修養科第982期修了者

山下未展(本清愛)

眞島美香(本濱松)

6月のおさづけの理拝戴者

近藤良祐(本愛濃)

近藤宏哉(本愛濃)

テレンス・ホーイ

(本愛アトランタ)

6月の初席者

清水江美(本耕愛)

柿本真次(本愛守)

本愛大教会

公式ホームページ

をご活用ください!



大教会日誌

令和5年6月25日~令和5年7月24日

6月

26日 本部月次祭

30日 常任役員会議◇役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・田中新一、加藤成幸

指図方・安藤正二郎 賛者・出口邦郎、久保眞樹

◇祭典講話—廣國分教会ようぼく・佐藤康弘先生

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・杉村善男、伊藤寿輝

◇大教会長挨拶

指図方・野田正道 賛者・佐藤幸一郎、鈴木真也

青年会例会

◇少年会 縦の伝道講習会

講師—少年会本部委員長・田邊大治先生

14日 布教実修所

16日 むつみ会例会

◇大教会長挨拶

ほんあいOKEIKO (参加者10人)

2日 よふき会例会

おつとめ、十二下りてをどり、連絡会

17日 こども食堂MOGU (参加者68人)

20日 婦人会例会

12日 常任役員会議

22日 女子青年例会